

実践報告

中学校における自己指導能力を育む道德教育の実践 — 生徒指導三機能を意識した「道德科」の授業実践を通して —

中尾 恵子*1 ・ 朝重 麻衣*2 ・ 長谷 和子*2 ・ 片淵 健太郎*3

【キーワード】生徒指導, 自己指導能力, 道德教育, 主体的, 対話活動

1 問題と目的

(1) 生徒指導の意義について

生徒指導提要(平成22年3月)には、「生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことです。(中略)各学校においては、生徒指導が、教育課程の内外において一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要です。(中略)自己指導能力をはぐくんでいくのは、学習指導の場を含む、学校生活のあらゆる場や機会です。授業や休み時間、放課後、部活動や地域における体験活動の場においても、生徒指導を行うことが必要です。その際、問題行動など目前の問題に対応するだけにとどめることがないようにする必要があります。発達の段階に応じた自己指導能力の育成を図るには、各学校段階や各学年段階、また年齢と共に形成されてくる精神性や社会性の程度を考慮し、どの児童生徒にも一定水準の共通した能力が形成されるような計画的な生徒指導が求められます」と記されている。生徒の自己実現の基礎となる日常の学校生活の場面では様々な自己選択や自己決定の場や機会があり、その過程において教職員が適切に指導や援助を行うことによって育まれていくと考える。

また、「魅力ある学校づくり検討チーム」報告(令和2年9月8日:文部科学副大臣決定)の取り組みべき施策の中には、「生徒指導提要にある通り、生徒指導とは、『一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動』である。その目標は、全ての児童生徒のそれぞれの人格のよりよい発達を目指すとともに、学校生活が全ての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることである。(中略)また、生徒指導は「成長を促す指導」「予防的な指導」「課題解決的な指導」の3つに分けることができる。いじめや不登校等の生徒指導上の課題について、問題行動など目前の問題に対応するといった課題解決的な指導だけでなく、成長を促す指導や予防的な指導を改めて認識することで、問題行動の発生を未然に防止し、全ての児童生徒が自ら現在や将来における自己実現を図っていくための能力の育成を目指し、学校におけるあらゆる場面を通じて積極的に生徒指導を行っていくことが重要である」とも述べている。

学習指導要領解説においても「学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義をふまえ、学校の教育活動全体を通じ、学習指導と関連づけながら、その一層の充実を図っていくことが必要である」と示されている。このことは、自立した学習の主体者として児童生徒を育成することの重要度が高まる今、さらなる生徒指導の充実

*1 佐賀大学大学院学校教育学研究科 *2 伊万里市立伊万里中学校 *3 佐賀市立川副中学校

や積極的生徒指導の推進を促すものであり、学校教育の最大の課題の一つと言っても過言ではない。

(2) 自己指導能力の育成

生徒指導提要では、生徒指導の意義は、「教育課程の内外において一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指す」ことにあると述べている。また、自己指導能力の育成については、児童生徒が「自分から進んで学び、自分で自分を指導していくという力（中略）が育つ指導を行っていくことが望まれます」とも述べている。その力を育み伸ばすためには、「指導の中で児童生徒が主体的に取り組めるような配慮」が必要であるとしている。生徒指導の意義である自己指導能力を育成するということは、児童生徒が自分から進んで学んだり、自分で自分を指導していく力を付けたりするために、教育課程の内外において、児童生徒が主体的に取り組むことのできる配慮のある教育活動を展開するということであり、学校の教育目標を達成することにもつながると考える。

(3) 生徒指導の教育機能と教育課程での位置付け

学校教育においては、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深く関わっている。各学校においては、生徒指導が一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来において主体的に自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて学習指導と関連付けながら、その一層の充実を図っていくことが必要である。また、教育機能としての生徒指導は、教育課程の特定の領域における指導ではなく、教育課程の全領域において取り組まなければならないものである。道徳教育や特別活動における学級活動などは、集団や社会の一員としてよりよい生活を築くための自主的、実践的な学習の場であるとともに、人間としての生き方についての考えを深めさせ、自己を生かす能力を養う場であり、生徒指導のための中核的な時間になると考えられる。

さらに、生徒指導は学校の教育目標を達成するために重要な機能の一つであり、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるように指導や援助をするものでもある。生徒指導は、全ての児童生徒のそれぞれの人格のよりよい発達を目指すとともに、学校生活が全ての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになるようにすることを目指すものであり、単なる児童生徒の問題行動への対応という消極的な面だけにとどまるものではないと考える。

(4) 道徳教育と道徳科で育成する資質・能力について

平成27年3月に学習指導要領が一部改正され、「特別の教科 道徳」（道徳科）が新設された。同年7月に学習指導要領解説が示され、「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」と改訂の経緯が述べられている。また、同解説特別の教科道徳編（「第3章特別の教科道徳」）の目標には、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」とも示されている。これにより道徳的な判断力を養うために、物事を一面的に捉えるのではなく、広い視野から多面的・多角的に考えて、状況や事情を自分の中に構成して正しく判断し、論理的に正しい結論や根拠を導き出すことができるよ

うな授業の実践化が求められている。児童生徒の道德性を育成するためには、道德的資質や能力を重視して、道德的価値や人間としての生き方の自覚を深め、道德的実践につなげていくことが必要である。

さらに、平成28年7月の中央教育審議会教育課程部会（考える道德への転換に向けたワーキンググループ）では、「深い学び」の実現に関わり各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせて思考・判断・表現がなされているかが留意事項として示されたとともに、道德科において深い学びを実現するための「見方・考え方」が、「様々な事象を、道德的価値の理解をもとに自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること」であることが示されている。

「対話的な学び」については、「子供同士の協働、教員や地域の人々との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることを通じ、自らの考えを深める」こととされている。「主体的な学び」として、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる」という姿が示されており、学習全般の基盤づくりの時間としても捉えられ、その充実が求められている。

（5）道德教育と生徒指導の相互関係

学校における道德教育は、豊かな心をはぐくみ、人間としての生き方の自覚を促し、児童生徒の道德性を育成することをねらいとする教育活動で、要としての道德の時間の授業（以下：道德の授業）をはじめ、各教科や外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動など教育活動全体を通じて行っている。生徒指導も、教育活動のあらゆる場面において行う機能としての性質をもっているが、道德教育は児童生徒の道德的心情、判断力、実践意欲や態度などの道德性の育成を直接的なねらいとしているのに対して、生徒指導は、児童生徒一人一人の日常的生活場面における具体的な問題について指導する機会が多くなる。これは、生徒指導は道德的実践の指導において重要な役割を担っているといえる。

このように両者の性格や機能は異なっているが、両者には密接な関係がある。例えば、道德教育において児童生徒の道德性が養われれば、それはやがて児童生徒の日常生活における道德的実践が確かなものになり、ひいては自己実現にもつながるため、生徒指導も充実していく。逆に、児童生徒の日常生活における生徒指導が徹底すれば、児童生徒は望ましい生活態度を身に付けることになり、これは道德性を養うという道德教育のねらいを側面から支えることにもなる。道德教育で培われた道德性や道德的実践力を、生きる力として日常的生活場面に具現できるように援助することが生徒指導の働きといえると考えられる。

2 3年間の研究の取組

（1）令和元年度の取組について

所属校では、平成30年度と令和元年度の2年間に佐賀県活用力向上事業の研究指定を受けて、校内研究に取り組んだ。平成30年度の活用力向上事業での「小中連携による基礎・基本の定着と自ら学ぶ児童生徒の育成」というテーマのもとに、本校の実態を踏まえたテーマとして「小中連携による基礎・基本の定着と自ら学び、表現できる児童生徒の育成～主体的に学習に取り組み、自分の考えを分かりやすく表現できる生徒の育成～」とした。所属校区は校区内に3つの小学校があり、その地域では最も児童生徒数や学級数が多い。学力的には、「読む」力の問題で正答率が低かったり無回答率も高かった

りすることから、文章を読み取る力に課題があり、自分の思いや考えを的確に相手に伝える力も伸び悩んでいた。小学校との学校間の連携も活発であり、学習指導では小・中学校ともに基礎的・基本的な知識及び技能の確実や定着や基本的な生活習慣にも課題があり、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決したり、自分の考えを書いてまとめたりする学習活動を設定して取り組むこととした。その結果、「活用」に関する力が伸び、同一学年の経年比較から比べると上昇し、教科によっては無回答率が減少した。また、日常的に教員が生徒の言動を褒める言葉を掲示することで自己肯定感が高まり、自己表現に積極的な生徒が増えたことも成果であった。一方で、話し合いやそれを取り入れた学習活動の進め方に戸惑う生徒が多く見られたことが課題となり、令和元年度は前年度の研究実践を継続させながらグループでの話し合い活動の進め方を設定して実践したいと考えた。校内研修を3部会（授業づくり部会、学級集団づくり部会、学習規律部会）に組織して研究を進めた。

① 授業づくり部会での取組

授業づくり部会では、授業者が授業デザインシート（図1）を活用して授業の構造化を図ったうえで授業を実施することで、生徒が1時間の授業の中で何ができるようになれば良いかを捉えて、見通しをもって取り組むことができるようになった。その結果「活用」に関する問題の正答率が上がったと考えられる。また、学習活動で、話し合い活動による課題解決の場面が確実に設定されたことで、生徒の課題解決に対する意欲が高まり、その中で自身の考えを深めたり広げたりすることができると実感している生徒が多くなった。学習課題の設定については、教科部会の中で学習課題を検討して課題解決のための学習活動を設定することで、生徒が課題解決に意欲をもち、積極的な学習活動が見られるようになった。

② 学級集団づくり部会での取組

学習規律部会が考案した「話し合いの進め方」を活用し、学級活動の中で学級の問題について話し合う機会を設定したり、週に1回、生徒の状況に応じて設定した議題について自由に話し合う「話し合い活動」の時間を設定したりした。開始当初は生徒同士で、思うように話し合いを進めることができなかつたり活発に発言したりすることは少なかったが、継続させることで徐々に生徒間で自分の考えを発言することができるようになってきた。また、課題解決について意欲的に意見交換をする姿も見られるようになった。

③ 学習規律部会での取組

校内で生徒に実態に応じた学習規律を設定して、定着のために指導を徹底した。規律を徹底して指導することで、始業時に落ち着いて授業に参加し、意欲的に学習に取り組む生徒が見られるようになった。教室環境の整備では、特に教室前面の掲示物を側面や背面に移動させたことも同様の効果につながった。また、「話し合いの進め方」や「話し合い5か条」を意識させることで、生徒自身が発言する場面と他者の意見を聞く場面を区別して活動できるようになった。

（2）令和2年度の取組について

令和2年度は、令和元年度の反省を踏まえて道徳教育の「ローテーション授業の実施」と「対話活動のある授業スタイルの確立」という目標を立てて研究に取り組んだ。

① ローテーション授業の実施

道徳の授業の実施については、これまでは学級担任が自身の学級でのみ授業を実践していた。前年度に学級担任からの「日々の業務や教材研究の負担感が大きい」という意見を受けて、各学年に所属する教員全員がペア（2人1組）を組んで、授業実践に取り組んだ。ローテーションをしながら各学

級の授業を担当（図2）し、学年所属教員で取り組むことで、教員の授業力の質の向上や授業中の生徒の様子への把握がしやすいことが考えられる。何より、教材研究の負担感が軽減されることも大きく、教員が授業実践を意識することで、年間35時間の道徳授業の実施（授業実施率80%以上）を目標とした。

授業デザインシート

| | |
|---------|----------------|
| 単元名・教材名 | 月 日 () 年 組 校時 |
| 本時のめあて | |

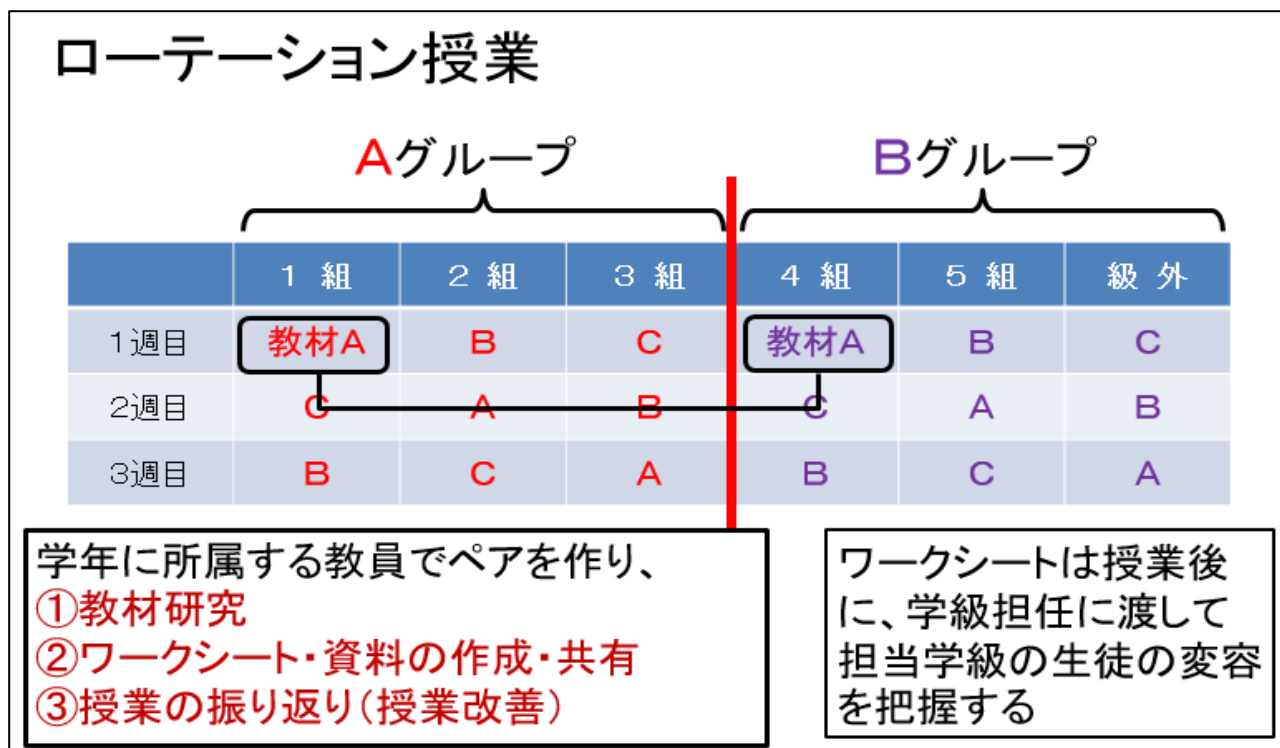
※ 表中の「基礎・基本」とは、学習指導要領中の「基礎的・基本的な知識及び技能」のこと

| | | |
|-----------|---------------|--------|
| ステップ 1 | 基礎・基本の習得 | |
| | 身につけさせたい基礎・基本 | 手立ての工夫 |

| | | | |
|-----------|--|---|--|
| ステップ 2 | 基礎・基本の活用（言語活動を通して学習課題を解決する） | | |
| | 学習課題 | | |
| | | | |
| | 活動内容 | 学習形態 | 活動を充実させる手立ての工夫 |
| | 1 体験から感じ取ったことを表現する。 2 事実を正確に理解し伝達する。 3 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。 4 情報を分析・評価し、論述する。 5 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。 6 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。 7 その他 () | ・一人 ・ペア ・グループ () 人 ・学級全体 ・その他 () | ※言語活動の手立て・ながれ・視点・時間設定・発表のさせ方等を具体的にまとめましょう。 |

| | | |
|-----------|---|-------------------------------|
| ステップ 3 | 基礎・基本の定着（めあてに呼応したまとめをさせることで定着をはかる。） | |
| | 学習課題 | |
| | 1 発問に答える（発表をする）。 3 説明をする（話す）。 5 その他 () | 2 記述する（書く）。 4 処理をする（計算する）。 |

【図1：授業デザインシート】



【図2：ローテーション授業】

② 道徳授業デザインシートの活用

令和元年度校内研究の取組で作成した授業デザインシート（図1）や、令和元年度に佐賀県で開催された九州地区道徳教育研究大会（佐賀大会）の資料を改変して活用した。教材を決めて、ペアになった教員がシートを活用して授業づくりを行うことで教材研究への負担感が軽減された。また、教員間の教材に対する価値観を出し合うことで、教材研究の深まりも見られるようになった。学習指導過程を一枚にコンパクトにまとめることが授業の進めやすさにつながり、授業を実施してみると分かる気付きや修正点も、次時の授業に反映することができた。さらに、年間を通して実践することで、多くの教材の道徳授業デザインシートをストックすることもできた。

③ 対話活動のある授業スタイルの確立と評価について

「主体的・対話的で深い学び」を具体的な授業場面での取組として、教材に対する教員の問題意識と、道徳的価値を自分との関係で捉えて様々な視点から考えることができる発問を工夫する必要がある。道徳授業デザインシート（図3）中には、自他の意見を大切にしたい対話活動を取り入れた授業づくりを目的とした「対話のねらい」を入れ、ペア・グループ対話、トリオ学習、旅行学習等を段階的に取り入れながら対話活動を発展させていった。授業後には、毎回の授業に使用したワークシートを道徳ファイルに綴じさせて、生徒の授業中の思考の変化を把握していった。また、ポートフォリオの作成を通して、生徒自身が自らの思考の変化を振り返ることで、自身の良い点や改善点を見付ける力を育てることができた。授業の最後に自己評価を行い、その後に教員から評価をフィードバックすることで、授業のめあてや客観的に自己評価できているかを確認することもできた。

| 道徳授業デザインシート | | 月 日() 年 組 |
|--|----------------------|---|
| ◆主題名 | | |
| 内容項目 | 教材名・出典 | |
| 本時のねらい | | |
| <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; font-weight: bold; margin-right: 10px;">L i n k</div> <div> <p>【基本発問】 <u>中心発問を主題とつなげるために、どんな発問をしておけばよいか。</u></p> <p>生徒の回答の仕方</p> <p>①(口頭 ・ 記述)</p> <p>②(口頭 ・ 記述)</p> <p>③(口頭 ・ 記述)</p> </div> </div> | | |
| ◆テーマ (中心となる発問) | | |
| 価値に迫るために | | |
| <div style="display: flex;"> <div style="width: 30%; padding: 5px;">◆対話のねらい</div> <div style="padding: 5px;"> <p>【活動の種類】</p> <p>1. 話し合い 2. 旅行学習 3. 役割演技 4. その他()</p> <p><u>なぜ対話をさせるのか、その意図を明確に。</u></p> <p>1. 変容をねらう 2. 多様さに気付かせる 3. 自分の考えを深めたり広げたりする</p> <p>4. その他()</p> </div> </div> | | |
| 学習のねらいを達成するための手立て | | |
| 1. 心情円盤 2. カード 3. ネームプレート 4. 心物差し 5. 付箋紙 6. ICT 7. その他 8. なし | | |
| 対話のスタイル | | |
| 1. ペア 2. グループ 3. 学級全体 4. その他 | | |
| 【本時のねらいについて考える発問】※必要な場合のみ | 生徒の回答の仕方 (口頭 ・ 記述) | |
| ◆最後の振り返り 授業を通して気づいたことや感じたこと など | | |
| <p>評価の視点</p> <p>イ---(意欲)実践意欲・態度</p> <p>マ---(深まり)価値理解の深まり</p> <p>リ---(広がり)多面的・多角的な見方へと発展している</p> | | |
| | | <p>具体的な評価の視点は、まだ入力されなくて結構です。</p> |

【図3：道徳授業デザインシート】

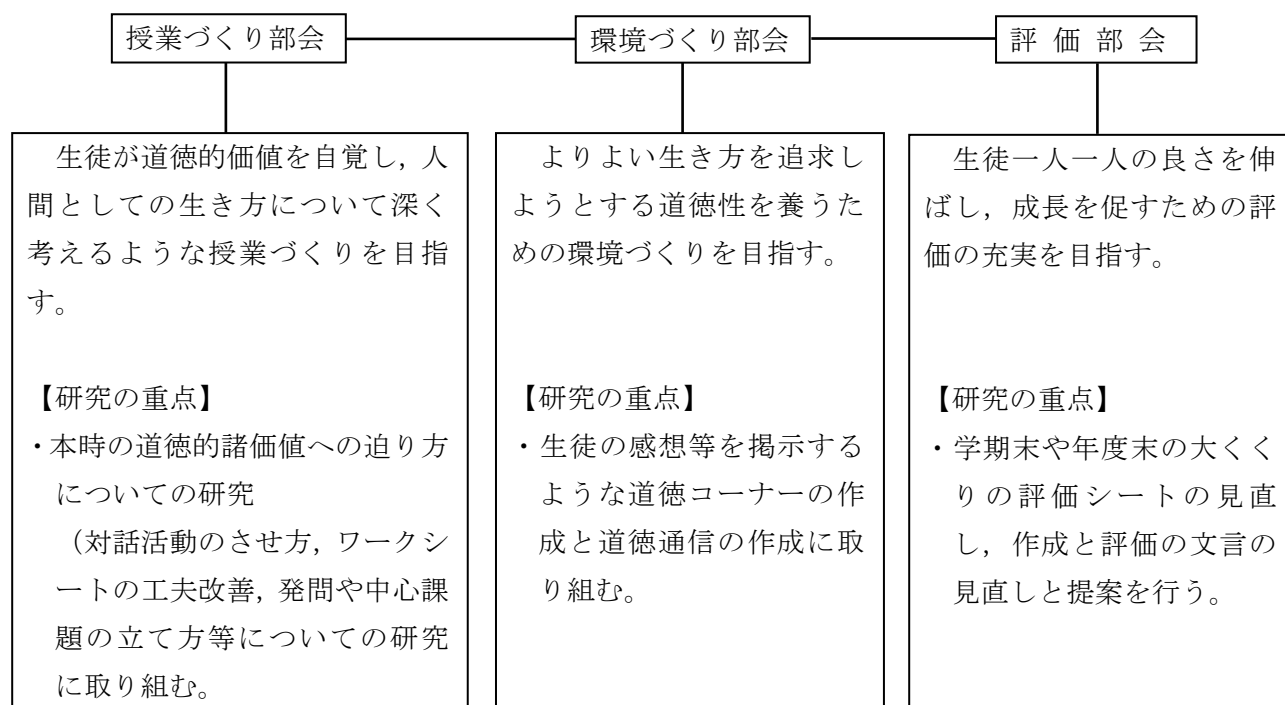
(3) 令和3年度の研究の実際

令和3年度は、令和2年度の研究主題を継続して実践に取り組んだ。昨年度から、道徳教育についての研究に取り組み、全教員で35時間の道徳授業を実施してきた。昨年12月に生徒を対象に行った道徳授業に関するアンケートでは、「友だちの意見を聞いて、自分の考えが変わったことがある」という項目について「そう思う」「やや思う」と答えた生徒が7割を超えた。この結果からは、対話活動を軸にした教員全体での授業実践の成果が見られた。また、7割以上の生徒が「いろいろな先生から道徳の授業を受けたい」と答えたことから、各学年での担当教員によるローテーションでの授業を肯定的に捉えていることがうかがえる。一方で、3割ほどの生徒が「道徳が好きではない」「道徳授業を通して自分のことを考えることができなかった」と答えたことから、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善において、「主体的・対話的な学び」では一定の成果が見られるものの、「深い学び」の視点では課題があるのではないかと考える。

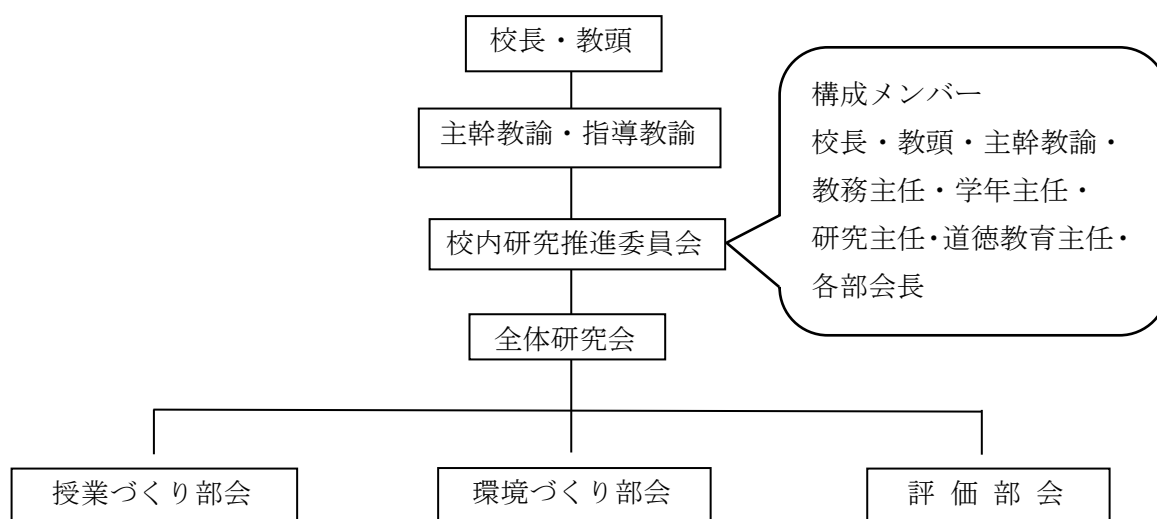
① 令和3年度の研究目標

令和2年度の取組の課題を受けて、「対話的に学ぶ場を仕組み、『考え、議論する』授業を展開することで道徳的諸価値の理解を深め、よりよく生きていこうとする態度を養う」という目標を設定した。「考え、議論する道徳」の実現のためには、道徳的諸価値についての生徒自身の理解が必要であり、人間としての在り方や生き方の礎となる道徳的諸価値の理解が深まれば、よりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成につなげていくことができると考える。年間を通して対話的に学ぶ場を仕組み、対話活動を軸にした授業を展開することで、道徳的諸価値の理解を深めさせた。資料を使い、教員や友だちや自分自身との対話の場を多く設定することで、自己を見つめ、よりよい生き方について考えていこうとする生徒を育成することができるのではないかと考える。対話的に学ぶ場を仕組み、「考え、議論する」授業を展開することで、道徳的諸価値の理解を深め、よりよく生きていこうとする態度を養うこととした。

② 校内研究各部組織



③ 校内研究組織



| 年 | 名前 | 年 | 名前 | 年 | 名前 |
|---|----|---|----|---|----|
| 3 | | 3 | | 3 | |
| 3 | | 3 | | 3 | |
| 3 | | 2 | | 2 | |
| 2 | | 2 | | 2 | |
| 2 | | 2 | | 2 | |
| 1 | | 1 | | 1 | |
| 1 | | 1 | | 1 | |
| 1 | | 1 | | 1 | |

○印は部会長

④ TTによる授業とローテーションを取り入れた授業実践

1・2年生ではチームティーチング（以下：TT）の形態を取り入れてローテーション授業，3年生ではローテーション授業を行った。TTで行うことにより，T1は生徒の反応を見ながら授業のコーディネートに集中することができた。また，T2が，資料によっては生徒の心情によるゆさぶりをかけるような補助発問を行うなど，生徒の思考を活性化せる手立てとしての有効性が感じられた。さらに，ローテーションで授業を行うことで教員が教材研究の時間を省くことができ，複数回（1・2年生は1資料につき5回）同じ授業実践ができたことで，問いや対話活動を工夫するなど，授業内容や発問をブラッシュアップすることができた。生徒も「次の授業の担当の先生は誰ですか」と質問をしてくるなど，道徳の授業に対して関心をもっていることがうかがえた。学級担任や教科担当以外の教員の授業は，生徒がより多くの価値観に触れる機会になり，生徒自身が自己の道徳的諸価値の理解を広げたり深めたりすることにつながると考える。また，具体的な年間計画を立てることで，教員が具体的な見通しをもちながら教材研究や授業実践に取り組みやすくなった。

⑤ 年間研究計画

校内研究を充実させるためにも、教員同士が取り組む内容を把握できることや各部で連携し合うことを可能にするために年間計画を作成した。実践内容に見通しをもって取り組むことは重要である。以下は、各部会での年間計画をまとめたものである。

| 月 | 主な行事等 | 主な研修内容 | 授業づくり部会 | 環境づくり部会 | 評価部会 |
|----|--|---|---|--|---|
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回研究推進委員会 ・第1回校内研究会 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画と研究テーマの確認 ・部会の決定 | <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> 本時の道徳的諸価値への迫り方の工夫について（発問・活動を含） </div> | <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> 道徳心を高めるような環境づくり </div> | <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> 生徒の成長を促すような評価の仕方と文言の検討 </div> |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2回研究推進委員会 ・第2回校内研究会 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳アンケートの実施 ・各部会での取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・対話活動の取り入れ方についての検討（ペア・G・旅行など、発問と活動の関連について） | <ul style="list-style-type: none"> ・6月までの道徳授業についての掲示物づくりと、生徒の感想を引用した道徳通信の発行 | <ul style="list-style-type: none"> ・学期の振り返りシートの検討 |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・第3回研究推進委員会 ・第3回校内研究会 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳アンケート結果と1学期の取組の振り返り ・職員研修 | <ul style="list-style-type: none"> ・対話が充実するような中心課題の立て方の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・8月までの道徳授業についての掲示物づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の振り返りシートの検討 |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・第4回研究推進委員会 ・第4回校内研究会 | <ul style="list-style-type: none"> ・各部会での取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・対話の充実に向けた活動のルール作り | <ul style="list-style-type: none"> ・10月までの道徳授業についての掲示物づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・通知表と要録記載の評価の検討 |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・伊西地区授業研究会 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業と授業研究会 | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・第5回研究推進委員会 ・第5回校内研究会 | <ul style="list-style-type: none"> ・2学期の取組の振り返りと講師による指導内容の共通理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・板書計画に基づく授業づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・12月までの道徳授業についての掲示物づくりと、生徒の感想を引用した道徳通信の発行 | <ul style="list-style-type: none"> ・通知表と要録記載の評価の検討 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・第6回研究推進委員会 ・第6回校内研究会 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳アンケートの実施と変容について ・研究のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ・各部会での取組のまとめ（成果と課題について） | <ul style="list-style-type: none"> ・各部会での取組のまとめ（成果と課題について） | <ul style="list-style-type: none"> ・各部会での取組のまとめ（成果と課題について） |

授業日 ()月()日

()号 名前()

問.



2. ()

【感想】 今日の授業を通して、気づいたことや感じたこと

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

振り返ってみよう

| | |
|----------------------------|---------|
| 1. 自分の考えを記入することができたか？ | A B C D |
| 2. 自分の考えを伝えることができたか？ | A B C D |
| 3. 友だちの考えを聞き、メモすることができたか？ | A B C D |
| 4. 授業の内容について、深く考えることができたか？ | A B C D |

A:意欲的にできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった

【図4：道徳授業ワークシートの例】

⑥ 道徳授業デザインシートの充実とワークシートの活用

令和2年度に取り組んだ道徳授業デザインシート（図3）中には、自他の意見を大切にされた対話活動を取り入れた授業づくりを目的とした「対話のねらい」を入れ、様々な対話形態を取り入れた学習を段階的に取り入れて対話活動を発展させた。ワークシートの中には、自分の考えや友だちの考えを記入させることで思考を可視化させ、最後の振り返りに活用することにも取り組んだ。授業後には、授業に使用したワークシートを道徳ファイルに綴じて、生徒の毎回の授業中の思考の変化を把握していった。また、教員が内容項目の価値について、生徒がじっくりと考える項目を設定することで、教材の価値がぶれることなく授業を実践することができた。さらに、簡略化した指導案の形式を全学年で統一したことで見やすくなり、時間があるときや指導方法を思いついたときに、すぐに教材研究に取り組みやすい体制を取ることもできた。

⑦ 道徳アンケートの実施

今年度の研究目標である「考え、議論する道徳」には、生徒の道徳の授業に対する姿勢や考えを把握する必要がある。そこで、先行研究や文献を基に質問項目を精選して作成し、昨年6月と今年1月に10項目のアンケート（図5）を実施した。特に、道徳的諸価値については生徒自身の理解が必要であり、人間としての在り方や生き方の礎となる道徳的諸価値の理解が深まれば、よりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成につながると考えた。質問項目の内容としては、以下のとおりである。

| 番号 | 質問内容 |
|----|--|
| 1 | 授業では、その時間のテーマやめあてを意識して取り組んでいる。 |
| 2 | 授業では、自分の考えをもったり書いたり伝えたりしている。 |
| 3 | 自分の考えをもったり、書いたり、伝えたりする活動は好きである。 |
| 4 | 授業では、考えを伝え合う活動をよく行っている。 |
| 5 | 授業では、友だちの考えを聞くことで自分の考えを広げることができている。 |
| 6 | 授業では、友だちの考えを聞くことで自分の考えが変わることがある。 |
| 7 | 話し合うときは、友だちの考えを受け止めて自分の考えを伝えることができている。 |
| 8 | 道徳の授業を通して、これからの行動や生き方について考えることができている。 |
| 9 | 道徳の学習は、自分の言動を決めるうえで役に立つと思う。 |
| 10 | 道徳の授業が好きである。 |

6月に実施したアンケートでは、アンケートを行うことで、研究主題である対話活動に関わる生徒の捉え方や道徳の授業に対する認識を確認できた。6月のアンケート結果（図6）から、「対話活動に力を入れているが生徒自身が道徳的諸価値の理解について自身の変容を実感していない」ことが分かり、それを改善するための手立てを授業づくり部会と環境づくり部会で取り組んだ。

⑧ 研究の視点を取り入れた道徳科学習指導案例（学習指導過程のみ掲載）

- 主題名 : 生命の尊厳
- 資料名 : ブラック・ジャック（ふたりの黒い医者）
- ねらい : 生命の尊厳について深く考え、かけがえのない自他の生命を尊重し、よりよくいきようとする心情を育てる。

○ 学習指導過程

| 過程 | 学 習 活 動 | 主な発問と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
|--------|---|---|---|
| 導 入 | <p>1 命に関するアンケート結果を知る。</p> <p>2 自分の寿命や家族の寿命について考える。</p> | <p>○あなたは何歳まで生きていますか。</p> <p>○家族には何歳まで生きてほしいですか。</p> <p>○自分と家族の期待寿命の差は何ですか。</p> <p>・家族には長く生きてほしい。</p> | <p>・資料への導入を図る。</p> <p>・自分事として考えさせ、展開につなげる。</p> |
| 展 開 | <p>3 教材（マンガ）の内容を聞く。</p> <p>4 ドクター・キリコの立場や考えについて考える。</p> <p>5 個人で考えた後、班でシェアリングを行い、全体で発表する。</p> <p>6 授業を振り返る。</p> | <p>○あなたはドクター・キリコの立場に賛成ですか反対ですか。</p> <p>賛成：患者が楽になるから。</p> <p>反対：救える命は助きたい。</p> <p>◎生きることや死を誰が決定するのだろう。</p> <p>・自分：自分のことは自分で決めたい。</p> <p>・家族：家族の意見を尊重すべきだ。</p> <p>・医者：今の限界だから。</p> <p>・その他：その時の状況によって変わる。</p> | <p>・電子黒板にマンガを写してT2と役割分担してセリフを言う。</p> <p>・賛成か反対かを選ばせる。その理由を聞き、中心発問を考えるステップとする。</p> <p>・時間をとってじっくりと考えさせ、ワークシートに記入させる。</p> <p>・生徒からの意見に対して追加の問いを行う。</p> <p>・寿命や立場、生死の決定や人生の長さや質に触れて考えを深めさせる。</p> |
| 終 末 | <p>7 本時の感想を書く。</p> | <p>○授業を通して、生命の尊さについて考えたことや感じたことは何ですか。</p> | <p>・評価 生命の尊さやかけがえのなさについて自分事として捉えて、考えを深めていたか。</p> |

道徳アンケート

以下の項目について、当てはまるものを塗りつぶしなさい。

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。

○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし ◐: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

- (1) 1 授業では、その時間のテーマやめあてを意識して取り組んでいる。
 よくあてはまる だいたいあてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない
- (2) 2 授業では、自分の考えをもって、書いたり、伝えたりしている。
 よくあてはまる だいたいあてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない
- (3) 3 自分の考えをもったり、書いたり、伝えたりする活動は好きである。
 よくあてはまる だいたいあてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない
- (4) 4 授業では、考えを伝え合う活動を行っている。
 よくあてはまる だいたいあてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない
- (5) 5 授業では、友だちの考えを聞くことで、自分の考えを広げることができている。
 よくあてはまる だいたいあてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない
- (6) 6 授業では、友だちの考えを聞くことで、自分の考えが変わることがある。
 よくあてはまる だいたいあてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない
- (7) 7 話し合うときは、友だちの考えを受け止めて、自分の考えを伝えることができている。
 よくあてはまる だいたいあてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない
- (8) 8 道徳の授業を通して、これからの行動や生き方について考えることができている。
 よくあてはまる だいたいあてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない
- (9) 9 道徳の学習は、自分の言動を決める上で役に立つと思う。
 よくあてはまる だいたいあてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない
- (10) 10 道徳の授業が好きである。
 よくあてはまる だいたいあてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない

【図5：実施した道徳アンケート】

⑨ 道徳アンケートの結果

| 項目番号 | 評価内容 | 総合評点 | 総合評価 | 評点平均【4.3.2.1】 | | | | 評価割合 (%) | | | 3年 | 2年 | 1年 |
|------|---|------|------|---------------|-----|----|-----|----------|-----|-----|-----|----|----|
| | | | | 3年 | 2年 | 1年 | 合計 | 93% | 7% | 91% | | | |
| 1 | 授業では、その時間のテーマやめあてを意識して取り組んでいる。 | 3.2 | A | 3年 | 3.3 | 4 | 34% | 93% | 36% | 27% | 38% | | |
| | | | | 2年 | 3.2 | 3 | 59% | | 57% | 65% | 56% | | |
| | | | | 1年 | 3.2 | 2 | 6% | | 7% | 7% | 3% | | |
| | | | | 合計 | 3.2 | 1 | 1% | | 7% | 1% | 2% | | |
| 2 | 授業では、自分の考えをもったり書いたり、伝えたりしている。 | 3.3 | A | 3年 | 3.4 | 4 | 36% | 91% | 50% | 24% | 34% | | |
| | | | | 2年 | 3.2 | 3 | 55% | | 42% | 67% | 55% | | |
| | | | | 1年 | 3.2 | 2 | 8% | | 6% | 9% | 9% | | |
| | | | | 合計 | 3.3 | 1 | 1% | | 9% | 2% | 1% | | |
| 3 | 自分の考えをもったり、書いたり、伝えたりする活動は好きである。 | 2.7 | C | 3年 | 2.8 | 4 | 17% | 61% | 24% | 15% | 12% | | |
| | | | | 2年 | 2.7 | 3 | 44% | | 39% | 47% | 47% | | |
| | | | | 1年 | 2.6 | 2 | 32% | | 33% | 34% | 30% | | |
| | | | | 合計 | 2.7 | 1 | 7% | | 4% | 5% | 11% | | |
| 4 | 授業では、考えを伝え合う活動をよく行っている。 | 3.3 | A | 3年 | 3.5 | 4 | 41% | 91% | 56% | 23% | 43% | | |
| | | | | 2年 | 3.1 | 3 | 50% | | 40% | 64% | 46% | | |
| | | | | 1年 | 3.3 | 2 | 9% | | 3% | 13% | 11% | | |
| | | | | 合計 | 3.3 | 1 | 0% | | 9% | 1% | 0% | | |
| 5 | 授業では、友だちの考えを聞くことで、自分の考えを広げることができている。 | 3.2 | A | 3年 | 3.3 | 4 | 37% | 88% | 42% | 30% | 39% | | |
| | | | | 2年 | 3.1 | 3 | 51% | | 48% | 56% | 47% | | |
| | | | | 1年 | 3.2 | 2 | 10% | | 7% | 11% | 11% | | |
| | | | | 合計 | 3.2 | 1 | 3% | | 12% | 3% | 2% | | |
| 6 | 授業では、友だちの考えを聞くことで、自分の考えが変わることがある。 | 3.0 | B | 3年 | 3 | 4 | 29% | 78% | 29% | 28% | 29% | | |
| | | | | 2年 | 3.1 | 3 | 49% | | 45% | 54% | 48% | | |
| | | | | 1年 | 3 | 2 | 20% | | 21% | 17% | 22% | | |
| | | | | 合計 | 3.0 | 1 | 3% | | 22% | 5% | 1% | | |
| 7 | 話し合うときは、友だちの考えを受け止めて、自分の考えを伝えることができている。 | 3.1 | B | 3年 | 3.2 | 4 | 34% | 84% | 37% | 31% | 35% | | |
| | | | | 2年 | 3.1 | 3 | 50% | | 50% | 54% | 46% | | |
| | | | | 1年 | 3.1 | 2 | 12% | | 10% | 13% | 14% | | |
| | | | | 合計 | 3.1 | 1 | 3% | | 16% | 3% | 2% | | |
| 8 | 道徳の授業を通して、これからの行動や生き方について考えることができている。 | 3.1 | B | 3年 | 3.1 | 4 | 33% | 84% | 34% | 26% | 38% | | |
| | | | | 2年 | 3.1 | 3 | 52% | | 49% | 58% | 47% | | |
| | | | | 1年 | 3.2 | 2 | 10% | | 10% | 12% | 9% | | |
| | | | | 合計 | 3.1 | 1 | 6% | | 16% | 7% | 4% | | |
| 9 | 道徳の学習は、自分の言動を決めるうえで役に立つと思う。 | 3.2 | A | 3年 | 3.3 | 4 | 38% | 85% | 36% | 32% | 46% | | |
| | | | | 2年 | 3.1 | 3 | 47% | | 58% | 46% | 38% | | |
| | | | | 1年 | 3.2 | 2 | 12% | | 4% | 22% | 9% | | |
| | | | | 合計 | 3.2 | 1 | 3% | | 15% | 1% | 0% | | |
| 10 | 道徳の授業が好きである。 | 2.8 | B | 3年 | 2.8 | 4 | 17% | 70% | 19% | 14% | 18% | | |
| | | | | 2年 | 2.8 | 3 | 53% | | 53% | 61% | 45% | | |
| | | | | 1年 | 2.7 | 2 | 22% | | 20% | 20% | 26% | | |
| | | | | 合計 | 2.8 | 1 | 8% | | 30% | 9% | 5% | | |

※総合評価は、3.4の割合が85%以上をA、69%以下をCとした

【図6：6月に実施した道徳アンケート】

| 項目番号 | 評価内容 | 総合評点 | 総合評価 | 評点平均【4.3.2.1】 | | | | 評価割合 (%) | | | 3年 | 2年 | 1年 | | | | | | | | | | |
|------|---|------|------|---------------|-----|----|-----|----------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | | 3年 | 2年 | 1年 | 合計 | 91% | 9% | 92% | | | | 8% | 60% | 40% | 90% | 10% | 89% | 11% | 77% | 23% | 91% |
| 1 | 授業では、その時間のテーマやめあてを意識して取り組んでいる。 | 3.2 | A | 3年 | 3.2 | 4 | 33% | 91% | 32% | 30% | 36% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 2年 | 3.2 | 3 | 58% | | 59% | 59% | 55% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1年 | 3.3 | 2 | 9% | | 0% | 9% | 9% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 合計 | 3.2 | 1 | 1% | | 9% | 0% | 2% | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 授業では、自分の考えをもったり書いたり、伝えたりしている。 | 3.3 | A | 3年 | 3.4 | 4 | 38% | 92% | 44% | 32% | 38% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 2年 | 3.2 | 3 | 54% | | 50% | 58% | 53% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1年 | 3.3 | 2 | 8% | | 6% | 8% | 9% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 合計 | 3.3 | 1 | 1% | | 8% | 0% | 2% | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 自分の考えをもったり、書いたり、伝えたりする活動は好きである。 | 2.7 | C | 3年 | 2.8 | 4 | 18% | 60% | 22% | 8% | 22% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 2年 | 2.5 | 3 | 43% | | 41% | 39% | 48% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1年 | 2.9 | 2 | 37% | | 33% | 48% | 29% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 合計 | 2.7 | 1 | 3% | | 40% | 4% | 2% | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 授業では、考えを伝え合う活動をよく行っている。 | 3.2 | A | 3年 | 3.4 | 4 | 36% | 90% | 53% | 18% | 37% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 2年 | 3.0 | 3 | 54% | | 35% | 70% | 56% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1年 | 3.3 | 2 | 10% | | 12% | 10% | 7% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 合計 | 3.2 | 1 | 1% | | 10% | 0% | 2% | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 授業では、友だちの考えを聞くことで、自分の考えを広げることができている。 | 3.2 | A | 3年 | 3.4 | 4 | 35% | 89% | 47% | 29% | 29% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 2年 | 3.1 | 3 | 53% | | 47% | 52% | 60% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1年 | 3.2 | 2 | 11% | | 5% | 17% | 10% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 合計 | 3.2 | 1 | 1% | | 11% | 0% | 2% | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 授業では、友だちの考えを聞くことで、自分の考えが変わることがある。 | 3.0 | B | 3年 | 2.9 | 4 | 25% | 77% | 21% | 22% | 32% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 2年 | 2.9 | 3 | 53% | | 55% | 49% | 54% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1年 | 3.2 | 2 | 20% | | 21% | 26% | 13% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 合計 | 3.0 | 1 | 3% | | 23% | 3% | 3% | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 話し合うときは、友だちの考えを受け止めて、自分の考えを伝えることができている。 | 3.2 | A | 3年 | 3.3 | 4 | 32% | 91% | 34% | 25% | 37% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 2年 | 3.0 | 3 | 59% | | 64% | 56% | 58% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1年 | 3.3 | 2 | 8% | | 2% | 17% | 6% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 合計 | 3.2 | 1 | 1% | | 9% | 0% | 2% | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 道徳の授業を通して、これからの行動や生き方について考えることができている。 | 3.3 | A | 3年 | 3.4 | 4 | 40% | 90% | 41% | 33% | 48% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 2年 | 3.1 | 3 | 50% | | 58% | 47% | 44% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1年 | 3.4 | 2 | 9% | | 2% | 18% | 8% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 合計 | 3.3 | 1 | 1% | | 10% | 0% | 2% | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 道徳の学習は、自分の言動を決めるうえで役に立つと思う。 | 3.3 | A | 3年 | 3.5 | 4 | 39% | 87% | 52% | 26% | 40% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 2年 | 3.0 | 3 | 48% | | 42% | 52% | 51% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1年 | 3.3 | 2 | 12% | | 7% | 20% | 9% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 合計 | 3.3 | 1 | 1% | | 13% | 0% | 2% | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 道徳の授業が好きである。 | 2.9 | B | 3年 | 3.0 | 4 | 27% | 70% | 34% | 23% | 25% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 2年 | 2.7 | 3 | 43% | | 39% | 44% | 45% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 1年 | 2.8 | 2 | 22% | | 24% | 22% | 21% | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 合計 | 2.9 | 1 | 8% | | 30% | 3% | 1% | | | | | | | | | | | | |

※総合評価は、3.4の割合が85%以上をA、69%以下をCとした

【図7：1月に実施した道徳アンケート】

⑩ 道徳アンケート結果の考察

6月実施分(図6)と1月実施分(図7)の評価別割合を比較すると、10項目のうち5項目の数値が上昇し、4項目はわずかではあるが下がるという結果になった。数値が上がった5項目(項目2, 5, 7, 8, 9)のうち、顕著だったのは項目7と項目8であった。項目8「道徳の授業を通して、これからの行動や生き方について考えることができている」については、1年生の約半数、2・3年生の約4割の生徒が「そう思う」と答えていた。教科書の資料を通して葛藤したり考えたりしたことを自分事として捉え直し、授業で深めた道徳的諸価値の理解を今後の生き方につなげようとする実践意欲をもつ生徒が増えたことは、現行の道徳教育が目指すものに通じると考える。項目10の数値は依然として低いものではあったが、項目8と項目9の結果からは、道徳授業が自己の生き方に有用感を感じていることがうかがえる。道徳の授業が、自己の言動や生き方の選択に役立つと感じている生徒が増えたことから、道徳授業に学年全体で取り組んだことやTT、ローテーションでの授業実践、中心発問や対話活動の工夫などの教材研究の効果が表れたことが考えられる。

一方で項目3「自分の考えをもったり、書いたり、伝えたりする活動は好きである」は年間を通して低い数値であり、対話活動に対して苦手意識を持っていることがうかがえる。「授業では、自分の考えをもったり書いたり、伝えたりしている(項目2)」「友だちの考えを聞くことで、自分の考えを広げることができている(項目5)」で「そう思う」「やや思う」と答えた生徒の割合が約9割であり、対話活動の意義を感じている生徒が多数いるにも関わらず、対話活動を好きではないと答えている(項目3)ことから、苦手意識を払拭させるための手立ての構築が必要である。生徒の対話活動への積極的な姿勢は他者との活発な意見の交流を促し、多面的・多角的な考えの構築につながると考える。また、自己や他者と対話して共通点や相違点を明らかにすることは、自らの価値観を見つめ直すことにもなり、これまで以上の道徳的諸価値の理解につながると考える。なお、「対話活動」について、6月(図6)と1月(図7)の得点に差が見られるかをt検定によっても分析した。その結果、いずれの項目でも6月と1月の得点に差は見られなかった。このことは、一昨年12月に生徒を対象に行った道徳授業に関するアンケートでも「友だちの意見を聞いて、自分の考えが変わったことがある」という項目について「そう思う」「やや思う」と答えた生徒が7割を超えていたことから、道徳アンケートを取る以前からの取組により、初期値が高かったということが考えられる。令和2年度からの取組の効果が、年度をまたいでも継続されたためであると考えられる。

⑪ TTやローテーション授業の実施

1・2年生ではTTによるローテーション授業、3年生ではローテーション授業を実施した。TTで授業を行うことによって、T1は生徒の反応を見ながら授業のコーディネートに集中することができた。また、資料によってはT2に生徒の感情や思考によるゆさぶりをかけるなどの補助発問を行うなど、生徒の思考を活性化させる手立てとしての有効性が感じられた。さらに、ローテーションで授業を行うことで教材研究の時間を省くことができ、複数回(1・2年生は1資料につき5回)同じ授業を実施したことで問いや対話活動を工夫するなど、授業をブラッシュアップすることができた。生徒も「次の授業はどの先生がされますか」と質問するなど、道徳授業に対して関心が高くなっていったことがうかがえた。学級担任や教科担当以外の教員の授業では、生徒が多くの価値観に触れる機会になり、生徒自身が自己の道徳的諸価値の理解を広げたり深めたりすることにつながったと考える。

⑫ 対話活動への取組

対話活動を活性化させるための役割分担表と話し合いの進め方を作成したものの、その活用には学級間での差が見られた。学校全体で統一した対話活動のルールがあることや「話し合いの進め方」や

「話し合い5か条」が定着することで、生徒自身が安心して自身の考えや意見を述べることができ、授業回数を重ねるごとに、徐々に対話活動への生徒の不安感が軽減され、対話活動は充実していくと考える。対話活動が楽しいと感じる生徒が増えることで、道徳的諸価値の理解の広がりや深まりにつながると考えられる。

3 まとめ

所属校において、三年間の実践に取り組んだ。学校における道徳教育の目標は、豊かな心をはぐくみ、人間としての生き方の自覚を促し、児童生徒の道徳性を育成することをねらいとする教育活動であることはいうまでもなく、各教科や外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動など教育活動全体を通じて取り組んでいる。また、道徳教育は児童生徒の道徳的心情、判断力、実践意欲や態度などの道徳性の育成を直接的なねらいともしている。生徒指導も、教育活動のあらゆる場面において行う機能としての性質をもち、児童生徒一人一人の日常的生活場面における具体的な問題について指導する機会が多い。このことは、生徒指導も道徳的実践の指導において重要な役割を担っていると言える。道徳教育において児童生徒の道徳性が育成されれば、それはやがて児童生徒の日常生活における道徳的実践が確かなものになり、ひいては主体的な自己実現にもつながることとなり、生徒指導も充実していく。逆に、児童生徒の日常生活における生徒指導が徹底すれば、児童生徒は望ましい生活態度を身に付けることになり、これは道徳性を養うという道徳教育のねらいを側面から支えることにもなる。道徳教育で取り組む対話活動で培う道徳性や道徳的実践力を、生きる力として日常的生活場面に具現できるように援助することが生徒指導の働きといえる。生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質・能力や態度を育成し、さらに将来において社会的に主体的な自己実現ができるような資質・能力を形成していく過程を支援していく働き掛けであり、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指すものである。全ての教育活動において、日頃からの学級経営の充実を図り、教員と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒理解を深め、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるように、さらなる生徒指導の充実を図る必要がある。

【引用・参考文献】

生徒指導提要 平成22年3月

学習指導要領 平成29年

中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成27年7月

日本中央教育審議会

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して ～ 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現 ～ (答申) 令和3年1月26日

秋山 博正

生徒指導と道徳教育が協働育成すべき「豊かな心」 2015年研究紀要 第48巻 第2号

豊泉 清浩

生徒指導と道徳教育の関連性に関する一考察 群馬大学教育実践研究(2012)第29号 pp131-139

茨木市教育センター調査研究部門所員会

「今求められる道徳授業のあり方について ～ 児童生徒アンケートから ～ 」平成27年度研

岩手県立総合教育センター

生徒指導の機能を生かした授業づくりの手引き（中学校）「授業が変わる 生徒が輝く」
茨城県教育研修センター

生徒指導に関する研究

「児童生徒が自己指導能力を高める学校支援体制の在り方」 平成 18・19 年度
岩手県教育研究発表会発表資料

中学校における積極的な生徒指導の在り方に関する研究

－ 日常の授業に生徒指導の機能を生かす手引きの作成をとおして －

平成 17 年度研究協力校：花巻市立花巻中学校

福岡県教育センター

道德教育に関する実態調査 実践授業「他機関作成・調査研究」アンケート用紙

【小学校用・中学生用】

高知県教育委員会

東部教育事務所道德意識調査 2017 年 4 月 25 日公開

亀田 大和

生徒指導と道德教育の充実による生徒が安心して過ごせる学級づくり

－ 自己指導能力の育成を核として －

沖縄県教育委員会

学校教育における指導の努力点 令和 3 年度版

小川 潔

生徒指導の機能をかした道德授業実践的研究

－ 主体的・対話な学びと道德性の関連を通して－ 広島国際大学 2018 年 12 月

岡田 誠

学級活動を中心とした自己指導能力の育成 － 目標設定に着目して －

指導教員：白松 賢・小田 哲

走井 洋一

子どもの道德性の発達に応じた道德教育 －「わたしたち」の範囲とその拡大にもとづく道德教育の可能性－ 2017 年

関口 昌秀

神奈川大学 心理・教育研究論集第 28 号 2009 年 3 月 31 日

玉川 敏史

特集「生きる力と希望をはぐくむ教育の推進」 日常の教育活動における生徒指導を生かした道德の授業実践 生徒指導の 3 つの機能を意識した道德の授業実践 平成 26 年度

武田 大典

自己指導能力を育成する生徒指導の在り方 ～ 家庭・地域との協働による生徒指導の機能を生かした教育活動を通して ～ 平成 21 年度

山口県教育委員会

よりよい生徒指導に向けて 第 I 章生徒指導（総論） 平成 23 年 3 月（改訂）

八千代市教育センター

道德教育に関する意識と実態 調査研究報告書第 41 集 平成 27 年年 12 月

(2022 年 1 月 28 日 受理)